岩手県焼石岳の周氷河地形

漆 原 和 子

岩手県南部の焼石岳 (1548m) 山頂において多角形土 (Polygonboden) を、山腹の東向斜面において氷袋土 (Taschenboden) を観察した。

焼石岳山頂における多角形土の直径は 60cm 前後である。安山岩からなる周縁部の垂角礫は 10~15cm で、中心部のそれは 5cm 前後であり、火山灰粗砂によって充填されている。

氷袋土は、山頂から南南東へ向う尾根の東側斜面 (標高約 990m) において、第四系とされている凝灰質砂層と、それを被う泥炭層との境界に発達している (図)。この露頭は、東へ緩傾斜する谷頭部をほぼ南北方向に切る断面であり、方向性から地氈現象によって形成されたものとは

考えにくく、泥炭層と凝灰質砂層の間隙率の差異によって形成された周氷河現象であると考えられる。泥炭層の最大の厚さは 30cm 余りで、仮に泥炭の堆積速度を 1mm/year (阪口1961) としても、泥炭層下限は 300 年前となり、極めて新しいものである。

焼石岳南東の山腹における顕著な地氈地域では、安山岩の基盤上に凝灰質シルト層と安山岩角礫層が堆積し、さらに火山灰が被っている。安山岩が露出している地域では細屑化が著るしく、しかも火山灰に被われている。このことから、火山灰降下前に、現在よりも著るしく安山岩の細屑化をひきおこすような気候条件があったと考える。

(1969. 10. 7 受理)

阪口 豊 (1961) : 石狩川泥炭地域の地形と水害
科学技術庁資源局

図 標高約 990m 地点に発達する氷袋土
1. クラックの発達した泥炭層
2. 凝灰質砂層

Periglacial Morphology on Mt. Yakeishi, Iwate Prefecture

Kazuko URUSHIBARA

The writer observed *Polygonboden* and *Taschenboden* on Mt. Yakeishi, Iwate Prefecture.

Polygonboden develops on the top of Mt. Yakeishi (1548 m). *Taschenboden* develops on the eastern gentle slope, at about 990 m, which is observed at the boundary of peat and tuffaceous sand.